

科目名	生物		英文表記	Basic Biology		平成24年3月6日	
科目コード	2009						
教員名: 伊波 清						作成	
技術職員名:							
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間	
全学科	2年	必	履修	2単位	講義	通年	
科目目標	生物や生命現象について生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理、法則を理解させ、科学的な自然観を育てる。						
総合評価	前期・後期評価: 定期試験(中間・期末)の平均の70%+小テスト、実験及び授業プリント30% 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。						
達成度目標と評価方法	科目達成度目標			達成度目標の評価方法			
	①ヒトを含めたすべての生物の基本単位が細胞であることを学ぶ。			①細胞に関する内容について試験を行い、その試験結果によって理解度を評価する。			
	②生殖と遺伝の仕組みを理解する。			②生殖と遺伝に関する内容について試験を行い、その試験結果によって理解度を評価する。			
	③細胞分裂の仕組み、染色体に含まれる遺伝子の役割を学ぶ。遺伝子の解析方法を学ぶ。			③遺伝子に関する内容について試験を行い、その試験結果によって理解度を評価する。			
	④神経伝達の仕組みを理解する。			④神経伝達の仕組みに関する内容について試験を行い、その試験結果によって理解度を評価する。			
⑤ヒトのからだの構造とその機能を学ぶ。			⑤ヒトのからだの構造に関する内容について試験を行い、その試験結果によって理解度を評価する。				
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4			
	◎		○	○			
授業概要、方針、履修上の注意	授業プリントやスライドを多用しながら生命の仕組み、からだの構造と機能を学ぶ。また、地球上の生物には多様性があるが、その中に統一性があることを生命のしくみを学ぶことにより理解する。適時小テストを行なう。年間3回の実験を行なう。						
教科書・教材	高等学校 生物I(第一学習社)、教員自作プリント						
授 業 計 画							
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			自学自習(予習・復習)内容	
1	ガイダンスとイントロダクション	2	授業の進め方や準備の仕方等について説明する。生物とは何かを考える。生物を学ぶ意義を考える。生物の基本単位は細胞であることを理解する。				
2	【細胞】生命の単位	2	細胞の発見と細胞説の成り立ちを学ぶ。				
3		2	細胞の機能や構造は、独自の働きをもつ細胞小器官で成り立つことを理解する。				
4		2	細胞の機能や構造は、独自の働きをもつ細胞小器官で成り立つことを理解する。				
5		2	細胞の働きに水が重要であることを学ぶ。				
6	細胞の増殖	2	体細胞分裂のしくみとその意味について学ぶ。				
7	【実験1】	2	細胞内外での触媒としての酵素の働きを学ぶ				
8	前期中間試験	1					
9	【生殖と発生】生殖	2	無性生殖と有性生殖の違いを学ぶ。				
10		2	減数分裂と生殖細胞の形成の仕方を理解する。				
11	有性生殖の過程	2	動物における配偶子形成と受精を理解する。				
12	発生とそのしくみ	2	卵割と胚の発生について学ぶ。				
13		2	受精から器官形成の過程までを理解する。				
14		2	神経胚から器官への分化までの仕組みを学ぶ。調節卵とモザイク卵について学ぶ。				
15	【実験2】	2	ウニの受精及び各発生過程を観察する				
期末	前期末試験	[1]					

16	【遺伝】遺伝の法則	2	メンデルの遺伝の法則を理解する。	
17		2	いろいろな遺伝現象について理解する。	
18		2	いろいろな遺伝現象について理解する。	
19		2	遺伝子相互の働きあいを理解する。	
20		2	性染色体と性の決定、伴性遺伝について学ぶ。	
21	遺伝子の本体	2	遺伝子の本体をどのように究明していったかを理解	
22		2	遺伝子としてのDNAの構造をどのように究明していったかを理解する。	
23	後期中間試験	1		
24	【環境と生物の反応】 刺激の受容と動物の反応	2	視覚と聴覚を中心に刺激を受容して効果器で反応するまでの過程を理解する。	
25	神経系	2	ニューロンとシナプスの構造について学ぶ。	
26	【実験3】	2	反応速度の測定	
27		2	神経系の種類、脳の構造と働きなどについて学ぶ。	
28		2	脳および脊髄の構造と働きなどについて学ぶ。 末梢神経系の分類と働きなどについて学ぶ。	
29	体液とその恒常性	2	内部環境について理解する。	
30		2	自律神経系やホルモンの働きなどについて学ぶ。	
31		2	恒常性を保つ働きを血糖量や体温などの調節を通して理解する。	
期末	後期末試験	1		
学習時間合計		60	実時間	45
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)
備考欄				

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分＝1、90分＝2)